②

2026.11.18

令和８年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
北海道地域循環共生圏フォーラム

活動団体の本事業での活動テーマ

『サスティナブルツーリズムを取り入れた
滞在型観光の促進ー環境・観光・子育て
教育・定住を統合した取り組み』

活動団体の活動地域：北海道豊富町
活動団体名　　：豊富町観光協会
中間支援主体名　　：北海学園大学

１．活動地域の紹介









2．団体の基本情報

（1）活動団体の基本情報

団体名	豊富町観光協会
活動地域	北海道豊富町

専門性・強み
豊富温泉、湯治、サロベツ湿原、酪農地帯、涼夏

団体概要
豊富町観光協会は、豊富町を中心とする地域の観光宣伝及び観光客誘致促進等に努めることにより、観光産業の健全な発展を図り、併せて地域の産業経済の発展に寄与することを目的として活動している。 主な観光地は、利尻礼文サロベツ国立公園に指定された**サロベツ湿原**、源泉に油分を含みアトピーに効能がある**豊富温泉**、壮大な牧草地帯が広がる**大規模草地**などである。2024年に「**ヘルスツーリズム認証**」を取得したことにより、健康増進を推進する道内の企業が、福利厚生などとして豊富町や豊富温泉を利用しやすくなるように取り組みを進めている。

（2）中間支援主体の基本情報

団体名	北海学園大学
活動地域	札幌市

専門性・強み
総合大学、北海道最大規模の私立大学、地域貢献

団体概要
北海学園大学は５学部、６研究科に学生・大学院生が在籍する総合大学である。 **北方共創圏研究センター**は、約70年の歴史を持つ旧開発研究所の後継組織として2026年４月に設置。共創とは、様々な利害関係者と協働し、新しい価値を生み出すことであり、本センターは蓄積してきた様々な学問分野の研究を生かし、地域の多様な課題の解決と持続可能な地域づくりを「共創」していく中間支援組織の役割を担うことを目指している。

3．目指す地域の姿【R8当初計画】

■地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

ありたい地域の姿は、子どもたちがワクワクする地域を築き、継承していくことである。
地域課題を克服する視点は、①**観光産業の拡大と閑散期の解消**によって雇用の創出、地域資源を活かした地域経済循環の強靭化、②**コミュニティでの対話の場づくり**、③**教育や子育て**において外部からの刺激により、子どもたちの地元愛を育む、である。

■地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

町内には、本事業に関わる観光や教育子育ての分野において、事業者やNPOなどの「点」は20～40程度存在している。**ワクワクとよとみの会のイベント開催**を通じて、これらの「点」を「面」に広げていく。将来的には地域おこし協力隊制度等を活用し、活動団体内部（または外部）に**コーディネーター**を設けることを目指す。

■ローカルSDGs事業として取り組む内容

本事業のイベントやワークショップ等での議論から生み出されていくものである。活動団体が実現したい事業は、豊富町との関わりを深めてもらい、また、住民にとっても持続可能な地域づくりにつながる、**地域活動への参画や交流等を行うプログラムの企画運営**である。

■地域の現状と課題

豊富町は、急速に進展する少子高齢化や地域の人口減少、経済の縮小という過疎問題に直面し、地域課題の解決に向けて地域産業の創出と維持発展が欠かせない。主要産業の観光業は**通過型観光**であり、宿泊者数の増加、冬期の閑散期の解消が課題である。
その打開策が、地域資源を活かした**ワーケーションや湯治といった滞在型観光**の潜在的な掘り起こしである。地域資源には、アトピーに効能があるとされる豊富温泉や雄大なサロベツ湿原などの自然資源、様々な分野で活躍しているヒトや団体があり、地域循環共生圏の素地は十分に有している。

4．地域版マンダラ

ありたい未来

子どもたちがワクワクする地域を築き、継承していくこと

成果

住民と大学生の交流・対話 ／ 地域の課題や魅力を共有 ／ アイデア事業化

取組

「ワクワクとよとみ未来会議」の開催 ／ 大学生「地域インターンシップ」

地域課題

- 少子高齢化と人口減少
- 中学・高校卒業後に離郷者が多く戻らない
- 魅力がある職が少ない
- 通過型観光（滞在型観光の増加）

地域資源

- 豊富温泉（アトピー湯治治療）
- サロベツ湿原、壮観な景勝地（大規模草地、利尻富士）
- 酪農、乳製品の六次産業化（バター、ジェラート、スコーン）
- 多方面の活躍するヒト

地域版マンダラ
活動地域：北海道豊富町
作成者（団体名）：上園（北海学園大学）
作成日：2026年3月13日

5．主なローカルSDGs事業

テントサウナイベント

【概要】
日本最北の温泉郷である「豊富温泉」は大正15年5月17日に開湯し、令和7年を以って99周年を迎えた。
この記念日を迎えるにあたり、2024年度に開催したワクワクとよとみ未来会議およびインターンにて豊富町に滞在した大学生より、豊富温泉でテントサウナを活用したイベントを実施し、地域活性化につなげていきたいとの提案のもと開催した。
また、豊富町の豊かな森林資源を活用し、テントサウナで薪を使用し発生する暖炉エネルギー（自然再生エネルギー）への知見を深めることや、サステナブルツーリズムの取組へと昇華させることを目的とした。





【段階】試行・試験
【実施時期】2026年9月（計3回実施）

【活用している自然資本・地域資源】
・豊富温泉地の活用
・サウナストーブ燃焼のため枯れ木等の森林資源を活用

【今年度の取り組み状況】
- 自然エネルギーの活用等による知見を深める教育への活用等
- 温泉地での新たな滞在方法としての継続活用

【事業の成果や今後の展望】
- 温泉地での新たな滞在方法として確立したものとなった。
- 本取組と各宿泊施設を連携させ、新規宿泊プランの造成等を行い、
- 宿泊利用者の増加および地域経済の好循環を促せるように進めていく。

大学生の地域インターンシップ

【概要】
2024・25年度に続き、大学生の地域インターンシップ（アイディアコンテスト）を実施した。学生には、豊富町の主産業、生活、教育について体験・理解をしてもらい、若者の感性を活かした多種多様な観点からアイデアを生み出してもらい、地域づくりへ活かしていくことを目的とした。今年度は札幌と兵庫県より7名が参加した。
今年度は、現地視察やヒアリングをもとに、温泉・自然・観光・子育て教育の4テーマでアイディアを考えてもらった。最終日の発表会で学生からアイディアを披露してもらい、参加した町民と意見交換を行い、今後の地域づくりにつなげることができた。





【段階】施行・試験
【実施時期】2026年9月

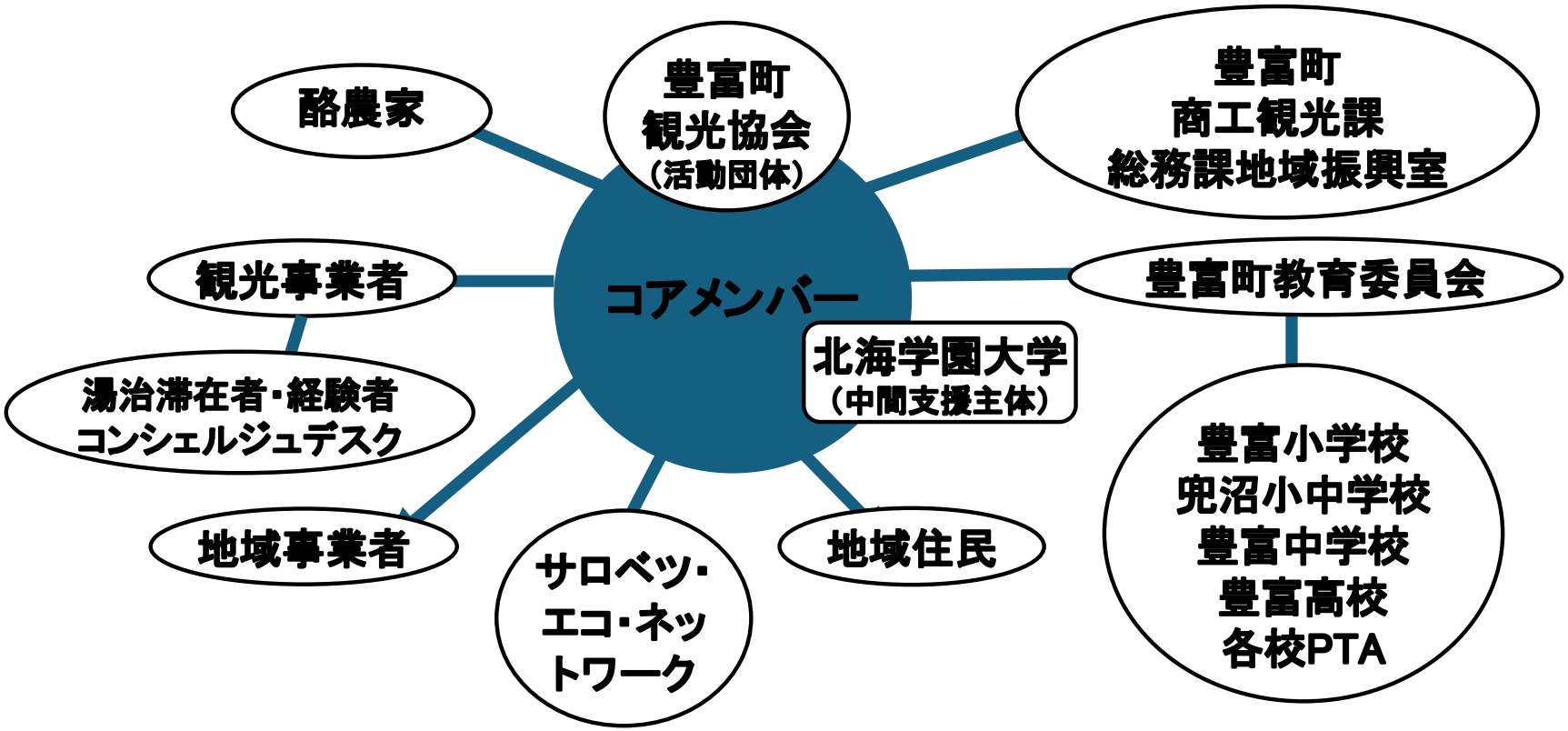
【活用している自然資本・地域資源】
・サロベツ湿原や牧草地などの自然公園、景観
・国内唯一の油分を含んだ豊富温泉

【今年度の取り組み状況】
- 多種多様な見識をもつ都市部の学生を当町へ招請する「豊富町地方留学」を実施し、定住支援や滞在型観光推進へとつなげる。
- 新たなビジネスモデルを構築する「アイディアコンテスト」を実施した。

【事業の成果や今後の展望】
- 7名の学生は、地域交流を通じて地元の産業や生活を知ってもらった。「アイディアコンテスト」で発表された事業案は次年度からの観光推進策として行政と協力して実現に向けて進めてゆく。
- また、本取組を引き継いでいく意思をもつ学生がいるため、次年度以降も本取組は継続していきたい。

6．地域プラットフォームの体制図

- 地域プラットフォームには、豊富温泉やサロベツ湿原などの観光事業者、飲食業や酪農業などの地域事業者、小中高校の教育関係者、子育てサークル、役場の担当者などが参加している。
- 参加者の大半は30～40歳代であり、現役の子育て者が多い。また、男女比がほぼ均等である。
- 中間支援主体には、北海学園大学の教員と大学生が参加している。



地域プラットフォーム
活動地域：北海道豊富町
作成者（団体名）：上園（北海学園大学）
作成日：2026年3月13日

7．活動のふりかえり

■今年度当初に設定した状態目標

【活動団体】
- 大学生等が参加するサスティナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業を実装する。
- プラットフォームに参加しているステイクホルダーのつながりを維持・発展させ、地域循環共生圏づくりを継承していく。

【中間支援団体】
- サスティナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業の実装に向けて支援を継続していく。
- 大学教育として中間支援者の育成プログラムを運用していく。

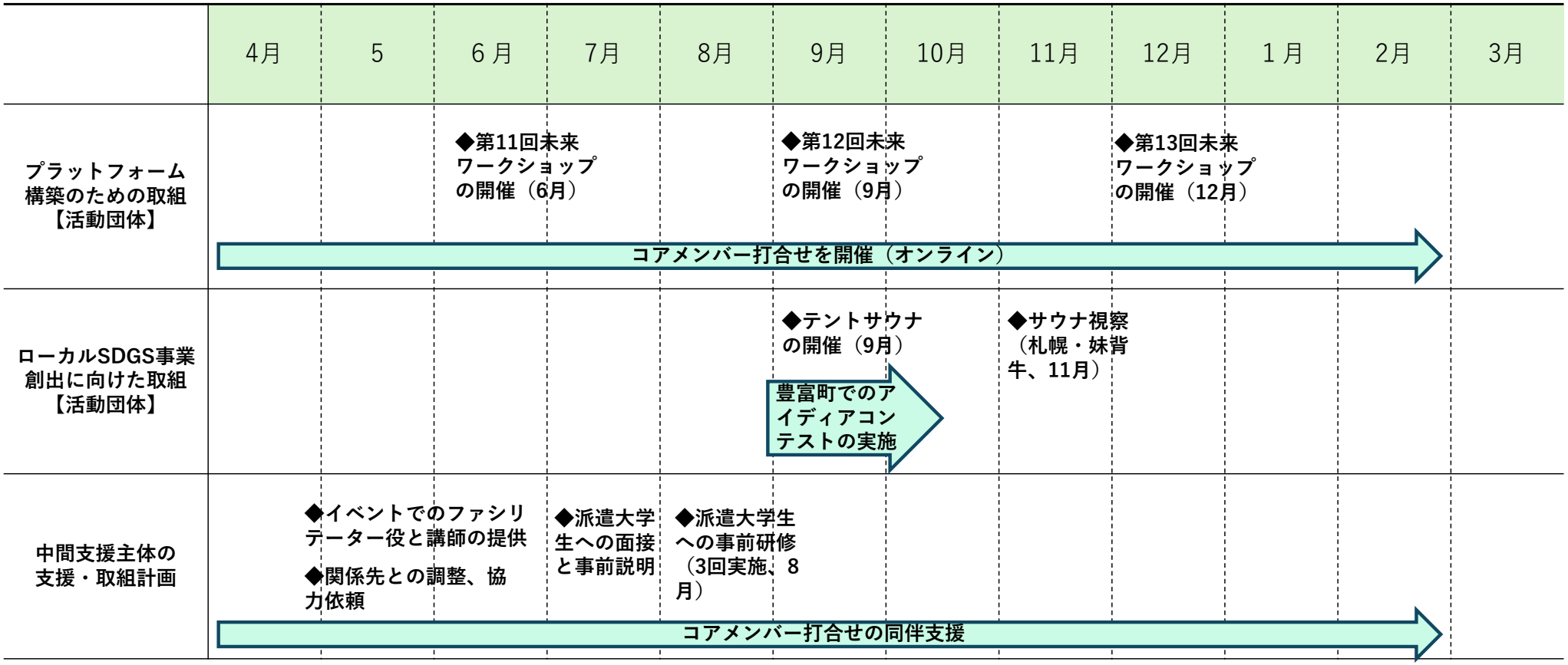
■今年度の活動のふりかえり

地域プラットフォームづくりやローカルSDGs事業創出を通じて得た「気づき・発見」「団体自身の変化（意識や視点、技術等）」 「新たに認識した課題」等についてご記入ください。

- 活動団体としては、学生インターンシップで提案されたテントサウナを3回実施し、滞在型観光事業として展開していく可能性と課題が確認された。
- プラットフォームの参加者のつながりを維持できた一方で、新たな参加者の輪を広げることが難しく、幅広い人との交流が必要であった。
- 中間支援団体としては、大学生インターンシップ（アイディアコンテスト）を実施したことで、若い大学生の斬新な発想を引き出すことができた。
- 今年度は、インターンシップの実施前に事前学習会を3回行い、育成プログラムを試行できた。しかしながら、質の高い大学教育まで高めていくためには、育成側の人員と体制を確立するなどの課題が残された。

活動・支援スケジュール

■スケジュール



備考（補足説明など必要な場合は記載）
・わくとみの活動を通じて、他団体との連携が行われた。8/16に子育て支援NPOのミラココの「お泊まり会」に参加した（大学生が豊富の子どもたちと宿泊施設で一晩過ごすイベント）。
・6/25に豊富町議会の公聴会にて、本事業の活動内容を報告し、活動実績と課題を共有した。
・9/12にテントサウナの準備作業の後に、豊富町議会と兜沼町内会と交流会（バーベキュー）を実施し、懇親を深めた。